

IgE 検査に関する「よくある質問 (FAQ)」

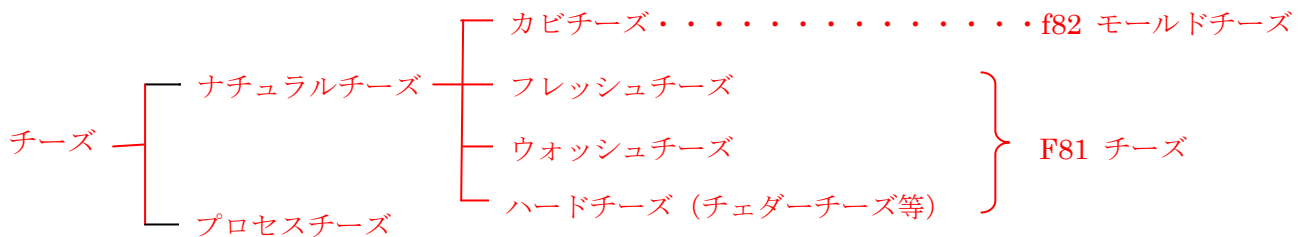
【食物アレルゲン】

Q1. ミルクは何の乳ですか?また、ミルク関連の項目にα-ラクトグロブリン、β-ラクトグロブリン、カゼインなどがありますがどのように使い分けたら良いのでしょうか?

A1. α-ラクトグロブリン、β-ラクトグロブリン、カゼインは牛乳の主要なアレルゲンとして知られている蛋白です。α-ラクトグロブリン、β-ラクトグロブリンは乳清成分に含まれ、β-ラクトグロブリンは牛乳蛋白の約 10%、乳清蛋白の約 50%を占めます。カゼインは牛乳の全蛋白の約 80%を占め、チーズの主原料となります。これらの蛋白に対して単独で IgE 特異抗体を産生している場合、混合アレルゲンであるミルクが陽性になる可能性があります。その場合、これらの単独アレルゲンを測定することにより、原因となるアレルゲンの検索が可能となります。

Q2. チーズにはいくつか種類がありますが、その特徴を教えてください。

A2. モールドチーズのモールド (mold) とはカビという意味です。カマンベール・プリーチーズ (白カビ)、ゴルゴンゾーラ・ロックフォール (青カビ) などのカビを利用して作られたチーズを指します。それに対し f81 のチーズはカビを用いないで作った普通のチーズを原料に使用しています。



Q3. グルテンとは何ですか?

A3. グリアジンとグルテニンから成る小麦の蛋白の一つでうどんや麺などの弾力成分です。アレルゲンの f79 グルテンはグリアジンを主原料にし、グルテニンもわずかですが含まれていますが、f4 小麦にはグルテンは含まれていません。小麦アレルギーの診断には両方とも有用ですが、小麦を食べた後に運動するとアナフィラキシー様症状を起こす「食物依存性運動誘発アナフィラキシー (FDEIA)」ではグルテンが関与していると考えられていますので f416ω-5 グルテンの測定が有用です。

Q4. オボムコイドとは何ですか。

また、卵白陽性、オボムコイド陰性、若しくは卵白陰性、オボムコイド陽性の場合の解釈の仕方を教えてください。

A4. オボムコイドは卵白を構成している蛋白の一つで耐熱性蛋白として知られています。卵白陽性でオボムコイド陰性の場合、加熱卵なら食べられる可能性があります。(但し、可能かどうかは本結果だけではなく、負荷試験などで総合的に判断する必要があります) 一方、卵白陰性でオボムコイド陽性の場合、オボムコイド特異的 IgE が低値の場合にみられます。卵白全体におけるオボムコイド含有量が少ないため、オボムコイド単独では陽性でも卵白は陰性になることがあります。この場合は卵白に感作されていると考えられます。

Q5. F97 ヤマイモはナガイモやヤマトイモと同じですか？

A5. ヤマイモにはナガイモ、イチョウイモ（別名ヤマトイモ）、ツクネイモなどの品種があり、いずれも同一種（*Dioscorea opposita*）です。

また、他にヤマイモと呼ばれるものには自然薯、大薯などがあり、厳密にはヤマイモと種は異なりますが、同属です。

Q6. アレルゲンコンポーネント検査とAra h2について教えてください。

A6. 通常、アレルギー起因物質(アレルゲン)の検索にはin vivoではブリックテストなどの皮膚反応、in vitroでは特異的IgE検査が用いられます。ほとんどの特異的IgE検査にはアレルゲン物質そのものによる粗製抗原が使用されますが、アレルゲンは様々なタンパク質により構成されており、その中にはアレルギー反応に関与しないものも含まれています。特異的IgEと反応するタンパク質のことをアレルゲンコンポーネントと呼び、既にオボムコイドや ω -5 グリアジンなどが検査されています。

Ara h2はアレルギーの原因物質として、しばしば重篤な症状を引き起こすピーナッツのコンポーネントの一つです。ピーナッツアレルギーの検査には完全抽出物による粗製抗原による検査が用いられますが近年、ピーナッツのアレルゲンはAra h 1, 2, 3, 8, 9などのいくつかのコンポーネントにより構成されていることが分かり、この中の1, 2, 3に対する特異的IgE抗体の存在が真のピーナッツアレルギーとされ、重篤な反応を起こすリスクが高いと考えられています。Ara h 2は即時型ピーナッツアレルギー（IM型）に対して陽性率が高く、ピーナッツ摂取によるアレルギー症状の誘発リスクを持つ可能性を高い確率で選別することが可能になります。通常行われているピーナッツ特異IgE抗体検査は、真のピーナッツアレルギー患者でなくとも陽性となることがあり、ピーナッツ除去が不必要なケースもあると考えられています。また、食物経口負荷試験（OFC）は、重篤な症状を起こすことがあるため、アナフィラキシーの既往がある場合などは推奨されない場合があります。